特集2 多氣不動尊と多気城跡

宇都宮市民の癒やしのパワースポット「多氣不動尊」

1200年の古刹と豊かな自然が魅力

宇都宮市西部の城山地区にある古刹「多氣山持宝院（多氣不動尊）」は、昔から「多気さん」と呼ばれ親しまれてきました。大谷寺とならんで地域を代表する寺院である多氣不動尊と、多気城跡の魅力についてご紹介します。

多氣不動尊の本堂

勝道上人の弟子・尊鎮法師が開基

宇都宮市の西部にある多気山。かつて戦国時代には、宇都宮氏が城を構えた山です。現在は山頂から四方を見渡せ、関東平野の眺望を満喫できます。また手頃な「山歩き」コースとしても親しまれています。

とはいえ、宮っ子にとって「多気山」と言えば、やはり「多氣不動尊」のことでしょう。正式には「多氣山持宝院」、真言宗の古刹で、開基は822年、日光開山の勝道上人の弟子であった尊鎮法師によると伝えられています。それから約1200年間にわたり、城山地区周辺だけではなく近郷近在から信仰を集めて来ました。だからこそ今でも「多気さん」と親しみをこめた呼び名が続いているのでしょう。

同寺の先代住職、伊東永峯（いとうえいほう）長老は、昔の同寺について、このように話してくださいました。

「交通手段が少なかった昔は、宇都宮や鹿沼から歩いてお参りに来られたそうです。娯楽の少ない時代には、お寺や神社をお参りすることが、庶民の娯楽でもあったのです。

私が住職を継いだ頃は、交通手段はまだバスくらいで、自家用車に乗って来られる方は、まだまだ少なかったですね。ですからバスが停まると、たくさんの方が参道を上がって来られました」

お寺参りは、庶民の生活文化に根付いた伝統だったのです。今でも続く毎月28日の「不動明王御縁日」には、多くの参拝客が朝から訪れているそうです。

酒呑童子と多氣山ご本尊

ところで、同寺のご本尊の不動明王像は、勝山（さくら市氏家）の明王堂にあったものを移転したと伝えられています。時期は長治2（1105）年、建武2（1335）年などの説がありますが、領主宇都宮氏によって移されたとされています。それまでは馬頭観音が安置されていました。

寺伝によれば、この不動明王像は天暦3（949）年に法眼円覚上人が大江山の鬼神退けのために彫ったものとされています。大江山の鬼といえば、有名な「源頼光の酒呑童子退治」を思い浮かべますが、まさにその時に「無事に退治できますように」との祈願のために彫られたのが、この不動明王像なのです。

鬼退治が成就した後に比叡山・鬼立滝に安置されましたが、前九年の役（1051～1062）の際、安倍氏討伐のために出陣した源頼義・義家親子の軍に僧侶としてついた石山寺座主・宗円が、調伏の功績を認められて下野国主に任ぜられて後、勝山へ移したと言われています。

多氣不動尊では不動明王像を秘仏とし、60年に一度御開帳してきました。しかし昭和32（1957）年に宇都宮市有形文化財に指定されたのを機に、不動明王が遷座された旧暦8月1日に「八朔祭」を執り行い、毎年御開帳するようになりました。現在は毎年9月第一日曜日に行われている八朔祭、当日は多くの信者が手を合わせ、ご本尊を拝んでいます。

多気城跡を囲む豊かな自然

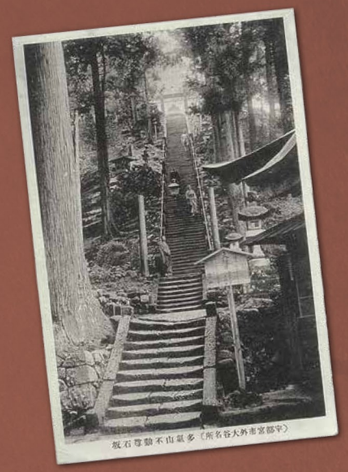
不動尊の周辺は宇都宮県立自然公園になっています。お参りした後で、ゆっくりと散策される人も多いようです。

社殿の裏手一帯は宇都宮市から「多氣山持宝院社叢」に指定され、保護されています。この社叢（神社や寺院の境内を囲む形で密生している自生林）にはアラカシ・ウラジロガシ・ツクバネガシなどのカシ類やヤブツバキ・ヒサカキ・ヤマザクラ・ヤマモミジ・イタビカズラなどが茂っています。日本の暖帯林の北縁に位置する林として、学術的にも高く評価されています。このような豊かな自然と、歴史ある建物とが一体となって景観を生み出しているところも、同寺の大きな特色です。

また、同寺は多気山の中腹にありますが、山の頂上まで登るとそこは平らな地形になっています。ここは宇都宮氏が築いた「多気城」の跡で、御殿平と呼ばれています。宇都宮氏の祖である宗円が康平6（1063）年に築いたといわれています。戦国時代末期には、22代宇都宮国綱（1568～1607）が北条氏への備えとして城を整備し、主だった武将を引き連れて移ってきました。そのため、この地域には宇都宮城下と同じ地名や寺名が、今でも残されています。宇都宮氏はその後、ふたたび宇都宮城に戻りましたが、やがて豊臣秀吉により改易され、多気城は廃城となりました。

御殿平周辺は木が生い茂り眺望も悪かったのですが、近年になって整備され、今は関東平野を一望できる名所になりつつあります。

[写真 上]126段の石段を登ると本堂へ
[写真 下]本堂左の歳神堂（手前）と弘法大師堂（奥）



[写真 上]大正時代の石段
（多氣山持宝院提供）
[写真 下]大正時代の門前の茶店
（多氣山持宝院提供）

お寺参りは庶民の信仰と娯楽の場

「近年は自家用車でお見えになる方が多くなりました。お寺の近くに市営の駐車場があり、ふだんはそちらまで車で来て参拝されます。夕方などは、運動のためにジョギングで来られる方もいらっしゃいます。

昔は寺に詣でることは信仰と同時に娯楽でもありましたから、門前の茶店も大にぎわいでした。夜通しのお祭りでは、茶屋に泊まる方もたくさんいらっしゃいました。近年はすっかり様変わりし、茶店も徐々に少なくなって、現在では二三軒しか残っていないのは寂しいことです」

同寺にお参りした後に茶店で休んで食べた名物のいもぐし、不動だんご、そばなどの味を、懐かしく思い出す宮っ子も多いのではないでしょうか。多気山のある城山地区には、有名な大谷があります。大谷寺や平和観音、大谷石採掘場跡を見せる大谷資料館、そして大谷石造りの建物など、名所旧跡が数多く残されています。

「自家用車の普及のおかげで、以前より手軽に来られるようになりましたし、時間も早い時刻から比較的遅い時刻まで、自由な時間においでになられますね」

年初、初日の出を迎える「来迎祭」は、毎年100人以上の参拝客を迎えています。またふもとの県道293号線沿いに広い駐車場を設け、利便を図っています。

多氣不動尊といえば長い石段を思い出す人もいるでしょう。「足の神足尾権現」や「学問の神天満宮」などを横に見ながら登ると、目の前には不動明王像を安置した本堂があり、左には歳神殿、そのさらに左に弘法大師堂、そして鐘楼堂があります。ここから今度は下ると、横へ入る道があります。ここから御殿平へ向うことができます。まっすぐ下れば水子供養地蔵尊があります。ここで橋を渡れば、石段に戻ります。

同寺は近年「宇都宮のパワースポット」として、若い人たちからも注目されています。多気山の豊かな自然と一体となったこの場所そのものが、現代人にとっては何よりの「癒やしの場」なのかもしれません。

※参考資料：塙静夫『うつのみや歴史探訪』随想舎

本尊・不動明王像（多氣山持宝院提供）

駐車場から多氣不動尊へ向う道

同寺前住職
伊東永峯長老

問合せ／多氣山持宝院（多氣不動尊）宇都宮市田下町563番地 ☎028-652-1488 http://tagesan.com